



ふれあい

この広報は赤い羽根共同募金の助成金で印刷されています。

編集発行

社会福祉法人 京極町社会福祉協議会
〒044-0121北海道虻田郡京極町字三崎68番地
TEL(0136)42-3681 FAX(0136)41-2031
Eメールアドレス
kyogoku-fukushi@blue.ocn.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.shakyo.or.jp/hp/63/>

第36回京極町ふるさとまつり協賛事業 ふれあい広場を **開** **催**

8月14日(火)「第26回京極町ふれあい広場」を開催いたしました。福祉課題について理解を深めることを目的に毎年開催しています。今年も地域福祉拠点kyo-cocoでは住民企画のフード販売、寺子屋サロン・絵手紙教室の展示販売。外ではかき氷、わたあめ、リサイクルバザー、フリーマーケットを行い、水遊び場を設置し、たくさんの方が訪れました。

ふれあい広場での収益は、町の福祉事業に大切に使われます。



京極町女性団体連絡協議会、京極町身体障害者福祉協会、京極町民生委員児童委員協議会、
京極町母子寡婦会、福祉委員、女性の会、京極製氷株式会社、NPO法人MiMaTa夢の匠

関係団体のほか、
多くのボランティアさん
の協力をいただき
ました。

第22回日本健康福祉政策学会 学術大会を京極町で開催しました

大会テーマ 「いのちの流れのほとりに
— 共生社会の基礎づくり —」

2018年 9月22日(土)、23日(日) 会場: 公民館・湧学館

大会長 前沢 政次 (ひまわりクリニックきょうごく)
実行委員長 柳原 保 (京極町社会福祉協議会)

大会運営に
ご協力いただきました
町民、保健福祉医療
関係者、行政の方々に
深く感謝
申し上げます。

全国各地から100名余りの参加者と約50人の町民運営スタッフが集まり学術大会を開催しました。1日目には東日本大震災の福島、宮城、岩手の取り組みをお話いただきました。9月6日の震災を経験したばかりとあって、身近な問題として多くの参加者が真剣に学びました。2日目には介護予防事業を先駆的に実施している茨城県の取り組みを学びました。そのほか、壁新聞コーナーでは全国各地の現場で活躍している保健師や医師等の取り組みや研究結果を知ることができました。このような全国的な大会を京極町で開催し、町民の方と共に参加し学ぶことができたことは大変貴重な時間でした。全国から参加した学会員からは地方開催ならではの人のあたたかさを感じた、充実した2日間だったと高評価をいただきました。



プログラム

9月22日(土)

- 基調報告「共生社会の基礎—こころ・つながり・希望—」:
前沢 政次(ひまわりクリニックきょうごく)
- リレートーク
「こころの復興に寄り添う」:
渡部 育子(ふくしま心のケアセンター)
佐藤 咲恵(陸前高田市地域包括支援センター)
長 純一(石巻市開成仮診療所)
- 「羊蹄山麓地域精神医療活動」:
土田 正一郎(倶知安厚生病院)
- 「スピリチュアルケアの地域展開」:
岡本 拓也(ひじり在宅クリニック)

9月23日(日)

- 特別講演「介護予防政策の評価と新たな展開」:
大田 仁史(茨城県立健康プラザ)
 - 社会事業大学コラボ企画「共生社会をめざした人材育成」:
鶴岡 浩樹(日本社会事業大学専門職大学院)
- その他、壁新聞発表、井戸端会議など

地域福祉拠点 『きょう・ここ』

新団体「きょう・ここ」 設立総会が 開かれました

平成30年7月26日京極町福祉センターにて設立総会を開催し、設立趣旨、事業計画、予算案が承認されました。また、設立時の役員も以下のように決定し、今後NPO法人設立認証にかかる手続きは新役員に委任されました。現在NPO法人認証の申請中で、手続きが完了次第、本格的な活動に入ります。



理事長：樋口 一男 理事：鳥谷部 寿美恵
副理事長：多田 雅典 理事：大磯 丸美
理事：加賀谷 多美子 監事：有末 道正

〈団体設立にあたって〉

平成29年4月に開所した「きょう・ここ」の1年間の来場者は4,500人を超えました。地域の人々が自分らしく活動できる場、集い憩える場として、この地域にとって必要な場所になっています。

これからは、この取り組みをより地域の願いに近いもの、一人一人の思いに寄り添ったものにするために、住民が主体となって運営していきます。

この活動にご賛同いただける方、応援してくれる方を引き続き募集します！

引き続き、会員募集中です

参加・協力のかたちは、あなたの思いに合わせて選択できます

種別	年会費	内容
正会員 (個人)	5,000円	総会での議決権を有する 支えあいステーションの「受け手」「担い手」としても利用・活動できる
支えあい会員 (個人)	2,000円	支えあいステーションの「受け手」「担い手」として利用・活動する個人
賛助会員 (個人・団体)	一口 1,000円～	活動に賛同し、金銭面での支援をする個人・団体

〈きょう・ここが行う活動(事業)〉

○コミュニティカフェ(居場所づくり)

地域食堂、サロン活動など、地域の人々が活動できる場、どんな人も集まり、憩える居場所づくりを、地域一体となって進めます。

○支えあいステーション(助け合い活動)

高齢者や障がい者、子ども、子育て中の方などが、暮らしの中で抱え込んでいる困りごとを、住民同士でたすけあい、支えあう、有償の生活支援サービスです。

●お申込み・お問い合わせは

京極町共生型地域福祉拠点(きょう・ここ)

〒044-0101 虻田郡京極町字京極223番地

TEL/0136-55-7061 FAX/0136-55-7062

きょう・ここ
Kyo-coco
京極町共生型地域福祉拠点

デイサービスだより

七夕会

先日、8/1(水)～8/3(金)の3日間で、七夕会を行いました。
 ○短冊に願い事(健康に過ごしたい。等)を書いたり、柳に飾り付けをしたり、利用者さんは笑顔で活動していました。他に、七夕に関するクイズやくじ引きも楽しんでいました。
 最終日には、歌【たなばたさま】を合唱しました。
 終了後は「楽しかった。」等、感想が聞かれました。とても良い思い出になったようです。



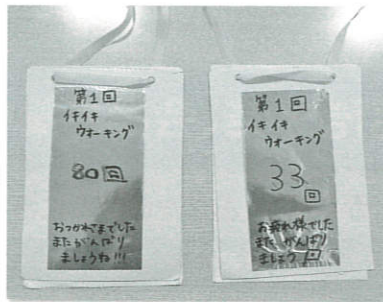
歩行運動(イキイキウォーキング)

昨年、8月から始めた「イキイキウォーキング」は一年経ちましたが、現在も多数の方々が意欲的に取り組んでいます。

皆さんは、一日平均2往復ほど歩いています。

これからも続けて、イキイキと過ごして頂きたいと思っています。

右の写真は、一部の利用者さんのそれぞれの一年間の記録を表したものです。



壁画

デイサービスのホールの壁に、毎月スタッフと利用者さんと、その月にちなんだ手作りの壁画を作って飾っています。

今後も続ける予定ですので、是非皆さんも見に来て下さい。お待ちしております。



居宅介護支援事業所

**入院時連携加算と退院退所加算により
 医療と介護の連携の更なる強化が
 図れるようになりました。**

平成30年度の介護保険介護報酬の改正がありましたので、見直しされた内容について紹介させていただきます。

入院時連携加算

在宅サービスの情報を医療機関に提出する事でどのような意思や意向で生活されていたのかを医療機関に情報提供ができる事で安心した入院生活が送れます。

退院退所加算

退院間近になり医師を含む多職種での話し合いによって、体調確認をさせてもらったり、退院後の在宅サービスの調整をスムーズに行う事ができるようになり、不安少なくご自宅での生活が始められるようになります。

今後も医療と介護の連携に重きをおき、自宅での生活に不安が軽減し、住み慣れた京極町で安心して暮らし続ける事ができるように対応させていただきます。

お問い合わせ、ご相談は… **京極町社会福祉協議会 居宅介護支援事業所**

☎42-3681 となっています。

訪問介護事業所

身体介護「見守りの援助」の範囲を明確化

これは単に「やってあげる」のではなく、利用者の自立を後押しする観点から安全に配慮しつつ寄り添って「共に行う」支援を指します。該当する行為は15種類あり、その趣旨に重度化防止や「高度な日常生活動作」、「生活の質」の向上が新たに位置付けられました。



〈利用者と一緒にこなう介護〉

- 掃除、整理整頓（安全確認の声かけ、疲労の確認を含む）。
- ゴミの分別をしてゴミ出しのルールを理解してもらう、または思い出してもらうよう援助する。
- ベッドでのシーツ交換、布団カバーの交換等。
- 衣類の整理・被服の補修。
- 認知症の高齢者と一緒に冷蔵庫のなかの整理等を行うことにより、生活歴の喚起を促す。
- 洗濯物を干したりたたんだりすることにより自立支援を促すとともに、転倒予防等のための見守り・声かけを行う。
- 調理、配膳、後片付け（安全確認の声かけ、疲労の確認を含む）。

〈見守りや声かけをする介護〉

- 入浴、更衣等の見守り（必要に応じて行う介助、転倒予防のための声かけ、気分の確認などを含む）。
- 移動時、転倒しないように側について歩く（介護は必要時だけで、事故がないように常に見守る）。
- ベッドの出入り時など自立を促すための声かけ（声かけや見守り中心に必要な時だけ介助）。
- 車イス等での移動介助を行って店に行き、本人が自ら品物を選べるよう援助する。
- ベッド上からポータブルトイレ等（いす）へ利用者が移乗する際に、転倒等の防止のため付き添い、必要に応じて介助を行う。
- 認知症等の高齢者がリハビリパンツやパットの交換をする際に1人で出来るだけ交換し後始末が出来るように支援する。
- 認知症等の高齢者に対して、ヘルパーが声かけと誘導で食事・水分摂取を支援する。
- 本人が自ら適切な服薬ができるよう、服薬時において、直接介助は行わずに、側で見守り、服薬を促す。
- 上記のほか、安全を確保しつつ常時介助できる状態で行うもの等であって、利用者と訪問介護員等がともに日常生活に関する動作を行うことが、生活の質向上の観点から、利用者の自立支援・重度化防止に資するものとしてケアプランに位置付けられたもの。

寄付・寄贈に感謝いたします。 ◆期間／6月～8月 寄付

【福祉基金へ】

- 本田 勇二様より、義理の母の故 山田 榮子様の生前のお礼として
- 柴山 壽太様より、妻の故 柴山 ムツ子様の生前のお礼として
- 黒川 秀敏様より、母の故 黒川 シン様の生前のお礼として
- 佐藤 哲明様、佐藤 隆様より、京極町の福祉のために
- 菊地 歌子様より、夫の故 菊地 明様の生前のお礼として
- 佐藤 登様より、京極町の福祉のために
- 阿部 尚泰様より、京極町の福祉のために
- 寺子屋サロン様より、京極町の福祉のために
- 絵手紙教室様より、京極町の福祉のために
- 山中 艶子様より、夫の故 山中 弘志様の生前のお礼として
- 山内 義昭様より、父の故 山内 豊様の生前のお礼として

- 京極町商工会女性部 部長 赤間 真知子様より、京極町の福祉のために

【共生型地域福祉拠点（きょう・ここ）へ】

- おばちゃん食堂よって様より、売り上げの一部を
- 穴戸 郁子様より、拠点寄付として
- 京極女性の会 会長 岡部 美智子様より、拠点寄付として
- 古屋 清子様より、拠点寄付として

京極町地域包括支援センター

京極町あんしんネットワークについて

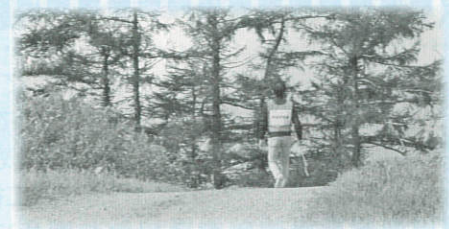
■関係機関による模擬訓練を実施しました

9月13日(木)に、警察と役場、町内の医療福祉関係機関で、京極町あんしんネットワークの模擬訓練を実施しました。(参加機関:京極駐在所、京極町役場、グループホームしらかば、ひまわりクリニック、慶和園、社協)

今回は、グループホームしらかばから所在不明者が発生したという設定で、役場から連絡を受けた関係機関がルートマップに沿って初動捜索を行うという内容で行いました。

結果として、当日捜索ルートに通行できない箇所があり、所在不明者役は関係機関に発見されずに終わりましたが、実際に不明者が発生した場合の本部の対応について課題を発見することができました。参加した関係機関からは、ルートマップの改善などのご意見もあったので、あんしんネットワーク事務局で改善に取り組んでいきます。

また、訓練を通じて、各施設の内部対応や、ネットワークの連絡体制が確認できました。模擬訓練は継続して定期的の実施していく予定です。



■個人協力者の模擬訓練を実施します!!

- ◆時期:11月中旬
- ◆目的:メール配信の効果検証
- ◆内容 ①所在不明者が発生したという設定で、個人協力者に情報をメールで配信。
②メールを受け取った個人協力者は、メールを見たということを返信。
③返信件数や返信までの時間を確認。



個人協力者の方は、メールに気が付いたら返信していただくようご協力をお願いします。
訓練の結果をもとに、あんしんネットワーク事務局でメール配信の運用について検討を行います。

■個人協力者を募集しています!!

あんしんネットワークでは、平成30年6月から個人協力者を募集しています。(9月末時点:54名登録)

個人協力者の方が町内全域にたくさんいると、目撃情報が集まりやすく早期発見・保護につながる可能性が高くなります。個人協力者は随時募集していますので、多くの皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

- ◆申請先:京極町役場 健康推進課(申請用紙は役場にあります。)
- ◆必要なもの:メールアドレス(できれば携帯電話)



このページの記事に関するお問い合わせは
京極町地域包括支援センター(☎55-8615直通)までお願いします。

京極町介護予防センター

京極町には住民のみなさんが主体的に介護予防に取り組んでいる「つどいの場」が6か所あります(平成30年9月現在)。

今回は一番初めに活動を開始した「かがやけ」の紹介をしていきたいと思います。

突撃!つどいの場 ~「かがやけ」の巻~

「かがやけ」は町内第1号のつどいの場として平成28年7月28日より活動を開始し、2年が経過しました。当初、加賀谷さんの自宅で取り組み始めましたが、近所の方から問い合わせがあり人数が増えたため、ふきだし町内会館→京極温泉の談話室と場所を変えて活動を続けています。

「かがやけ」

開催日時:毎週水曜日10:00~

場所:京極温泉談話室

サポーター:3名(右の写真参照)

参加平均人数:9名

その他:ちょこっと体操の後に「ふまねつと」や茶話会も行っています。

温泉券を持っていない方は入館料がかかります。



温泉に入るついでに一緒に体操してみませんか?談話室をのぞいてみてください!!いつでもだれでも大歓迎です!!

お問い合わせは...
介護予防センター
(代表☎0136-42-3681)



つどいの場とは?

- ①誰もが気軽に集まれる地域の小さな拠点
- ②3人以上のメンバーで構成されている
- ③「ちょこっと体操」を週1回以上行っている
- ④町民が主体的に運営している

「かがやけ」サポーター紹介

*つどいの場サポーターとはつどいの場を自ら開設し、中心になって活動する人です



加賀谷 正子さん

仲間と一緒になら、長く続けられるので楽しいですよ!自分の為なので、皆さんも参加してください!



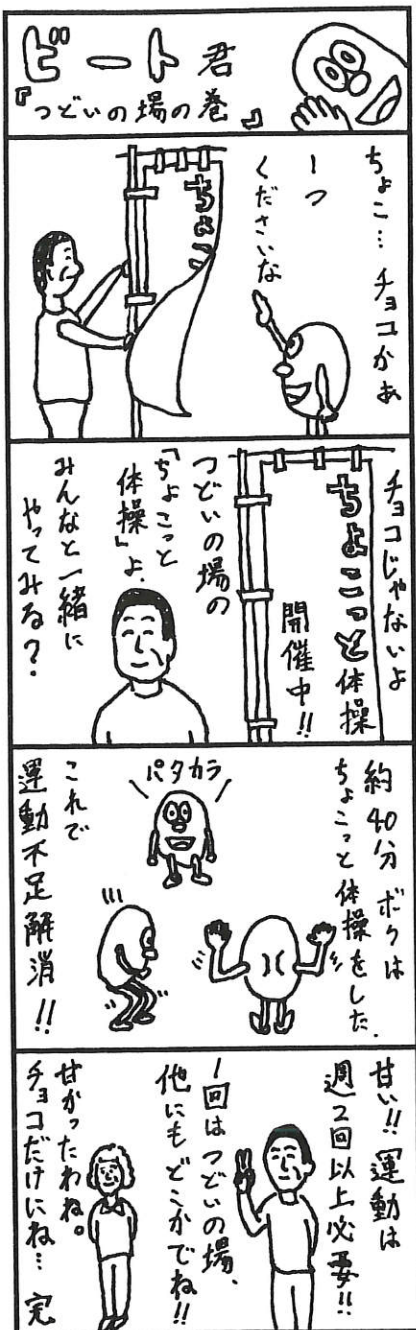
長谷川 喜以さん

続けることが大事!
「ちょこっと 老老参加 パワーもらう」



加賀谷 多美子さん

継続は力!
楽しく続けていきましょう



共同募金へご協力をお願いします

今年も赤い羽根募金、歳末たすけあい募金が始まります。京極町では、町民みなさんのご協力のおかげで毎年目標額に達することができています。寄せられた募金総額の、約8割が京極町の福祉のために使われ、残りが北海道広域の福祉事業のために使われます。



赤い羽根共同募金

【期間】10月1日～12月31日

目標額：1,031,000円

(募金の使われ方) ※昨年度

広報ふれあい発行、小学校ボランティア活動助成金、高齢者緊急通報システム設置助成金、共楽クラブ・湧水塾・母子寡婦会・身体障害者福祉協会の団体活動の助成金など。

歳末たすけあい募金

【期間】12月1日～12月31日

目標額：1,250,000円

(募金の使われ方) ※昨年度

一人暮らし高齢者や重い障がいを持つ方などへ歳末支援金の配付、福祉施設でのクリスマス会開催、除雪ボランティアイベントの開催など。

赤い羽根募金 京極町限定募金バッジ

ゆうくん すいちゃん & 羊蹄山とひまわり

1コ500円 (寄付額 300円)

募金バッジ2018バージョンが出来ました! 数量限定、京極町限定で実施します。寄せられた寄付金は主に京極町内の福祉活動につかわれます。

福祉センター窓口で取り扱っていますので、お早めどうぞ。



赤い羽根共同募金は、京極町の地域福祉活動の貴重な財源です。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。